

経営比較分析表（平成30年度決算）

神奈川県 三浦市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cb2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	34.39	86.98	2,868

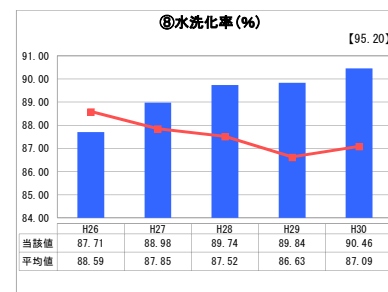
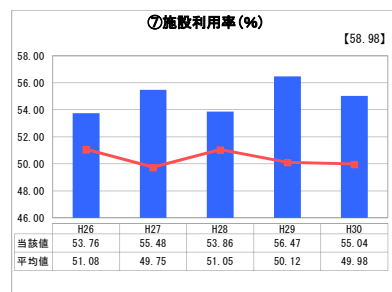
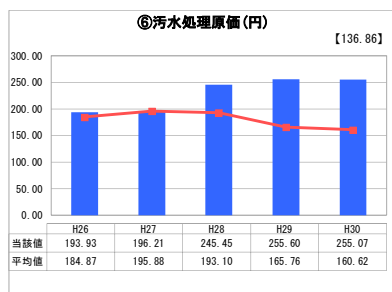
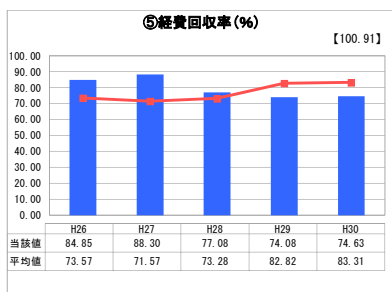
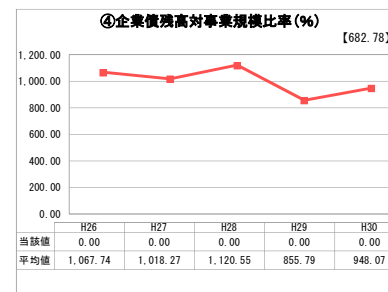
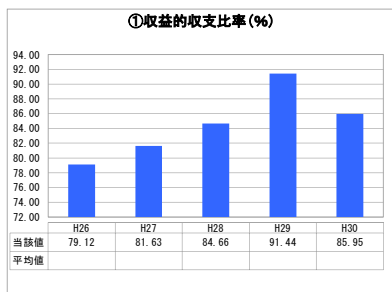
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
43,770	32.05	1,365.68
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
14,982	2.14	7,000.93

グラフ凡例

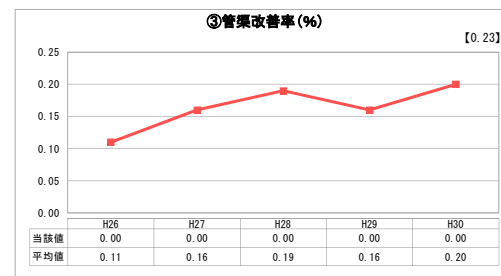
- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）

【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は100%を下回っていますが、これは普通交付税措置のある下水道事業債（特別措置分）の発行等によるためや、低金利となる市債へと借換を行ったことにより、地方債償還金の支出が増加したためです。平成28年度の数値が上昇しているのは、平成27年10月に下水道使用料の改定を行ったためであり、平成29年度の数値が上昇しているのは、地方債償還金の支出が減少したためです。また、平成30年度の数値が下降しているのは、国庫補助金の収入が減少したためです。

企業債残高対事業規模比率は、地方債償還金を一般会計繰入金に依存していることから数値がありません。今後は、特別会計や企業会計の独立採算の観点から、一般会計繰入金への依存度を下げよう、経営努力する必要があります。

経費回収率及び汚水処理原価は前年度と比べ、横ばいとなっています。施設利用率は類似団体と比較して高くなっていますが、今後、人口減少や節水効果等の影響による汚水量の減少が想定されるため、処理区域の拡大や施設規模の縮小といった方法も検討していく必要があります。

水洗化率は類似団体と比較して高くなっていますが、経営の安定化の観点から、引き続き普及と活動を行い、数値を上昇させる必要があります。

2. 老朽化の状況について

平成10年度の供用開始という比較的新しい施設のため、現在は、管きょ更新にかかる支出はありません。

今後、必要となる管きょ更新に向けて、平成29年度に処理区域内の全体にわたり、テレビカメラを用いた管路調査を行いました。平成30年度は、この管路調査の結果を踏まえ、老朽化対策が急務な管きょの補修工事を行うとともに、計画的かつ効率的な管きょ、処理場、ポンプ場施設の維持管理計画及び改善更新計画を作成しました。

今後はこの計画に基づき、施設管理の最適化を図っていきます。

全体総括

管きょ施設は比較的新しいものの、処理場の設備などの老朽化により、今後、更新費用の増大が想定されます。

また、一般会計繰入金への依存度が高く、経営基盤が不安定な状況です。このような状況を改善するため、平成27年10月に下水道使用料の改定を行いました。維持管理費の縮減など、更なる改善策を検討する必要があります。

現在は、令和2年度から適用する地方公営企業会計への移行を進めるとともに、適正で安定的な事業運営を目指して、コンセッション方式の導入を検討しています。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。